

令和2年度 学校自己評価表(計画)

学校運営計画				
学校運営方針		豊かな人間性をめざして高い知性と確かな学力を養い、進路目標の実現を図るとともに、自主性と責任感を養い、基本的な生活習慣を確立させることにより、明るく爽やかな生徒を育成する。		
教育目標				
1 学校教育に関する法規の定めるところに従い、国際的視野に立ち、社会の変化に主体的に対応できる能力と態度を育成する。 2 心身の調和のとれた成長・発展を目指し、豊かな心でたくましく生きていくことのできる人間を育成する。				
指導方針				
1 自主性の確立 自分の考えをしっかりとつ習慣を身につける。 ア 客観的、総合的に判断して、知性ある正しい行動ができるような習慣を養う。 イ 高い価値を求める心情を育成する。 ウ 自分で自分を律することができる強い意志をもつ。 2 責任観念の養成 自分の言動に責任をもつ生活態度を養う。 ア 困難に耐え、自分の仕事を積極的に全うする気力をもつ。 イ 働くことをいとわず、誰からも信頼されるよう心がける。 ウ 規範意識を高め、明るい社会の建設に励みあう連帯感を養う。 3 協力精神の育成 相手の立場を考えて行動する心構えを育てる。 ア 相手を敬い、理解し得るような社会性を養う。 イ すすんで社会に奉仕する謙虚な心をもつ。 ウ 正しいエチケットを身につける。				
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標	
【成果】学校運営の改善をめざし、生徒、保護者、職員等へのアンケートを実施した。生徒の規範や安全・人権に対する意識を高める取り組みを行い成果を上げた。 【課題】生徒の進路希望実現に向け、生徒の学力向上や特色ある教育活動を一層推進する。そして、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体で醸成し、心身ともに健康な生活を送ることができるよう支援する。また、アンケート結果や意見を踏まえ、さらなる教育活動の充実に取り組む。		時間を大切にする生活習慣と学習習慣の確立を図り、バランスのとれた高校生活を過ごさせる。	教職員の共通理解の推進、遅刻の防止、適正な身なり、教育相談の充実、自己管理能力の醸成	
		校内外の研修会への参加や自主的研修により、教職員の指導力の向上を図る。	授業公開、校内研修会の充実、研修に対する教職員の意識の高揚	
		生徒の実態に即した授業内容の改善と工夫によって学習意欲を育むとともに、生徒の進路実現を可能にする確かな学力を養成する。	授業評価の実施、授業改善と課題の精選、家庭学習時間確保、生徒への個別学習指導	
		啓発的進路学習を通じて生徒の進路意識を高めるとともに、新しい時代に必要となる資質、能力を育成することで、進路希望の実現を図る。	土曜活用、模擬試験、講演会、体験入学、進路情報等の充実、大学入学共通テスト受験奨励	
分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
学校経営	安全・安心な学校づくり	生活意識調査で、学校生活に「満足」「どちらかといえば満足」が80±5%。		
	進路希望の達成	3学年当初の進路希望に対する達成率が80±5%。		
	組織的な学校運営	職員アンケートで、「組織的な学校運営がなされている」について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が80±5%。		
1学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上。		
	基礎学力の定着	スタディーサポート・進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。		
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
2 学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上。		
	基礎学力の定着	11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。		
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上。		
3 学年	学力の伸長	① 模試のGTZのB2以上の割合で、2年次の2月進研マーク模試から3年次11月ベネ駿模試にかけて10%アップを目指す。 ② 生徒のアンケートで「学力が伸びたと実感できた」とする割合を60%以上とする。		
	適切な進路情報の提供と進路希望達成のサポート	① 生徒へのアンケートで「進路情報が適切に提供されている」と感じる割合が80%以上。 ② 生徒のアンケートで「先生方は質問や相談によく応じ、サポートしてくれる」の割合が80%以上。		
	進路希望の達成	① 大学進学における合格者を国公立60人以上、難関大3人以上とする。 ② 就職希望者の100%の内定者を実現する。 ③ センター試験出願率85%。		
学究コース	学力養成・進路実現	3学年：進研模試でGTZ B1以上が30人、国公立大学合格者が30±5人。  2学年：11月進研模試で英数国3教科偏差値50以上が50%、3教科学力A3以上が30%。  1学年：スタディーサポート・進研模試の3教科学力A3以上が30%。		
	家庭学習の定着	3学年：週30時間以上の家庭学習を行う生徒が60%。  2学年：週23時間(平日3時間、休日4時間)以上の家庭学習を行う生徒が80%。  1学年：週23時間(平日3時間、休日4時間)以上の家庭学習を行う生徒が60%。		
国語科	授業力の向上	生徒アンケートを実施、【授業が「わかる」「できる」】項目の「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。年間通し全員が授業公開を行い、意見交換をする。		
	学力の伸長 1 学年	1月進研記述模試「国語」で偏差値普通科50以上が80人以上。学究56以上が30人以上(昨年度96人、40人)。		
	2 学年	2月進研共通テスト模試「国語」で偏差値普通科50以上が80人以上。学究56以上が30人以上(昨年度73人、32人)。		
	3 学年	大学入試共通テスト「国語」で全国平均点以上が100人以上。(昨年度10クラスで108人)。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
地理 歴史 公民科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。		
	授業力の向上	生徒アンケートの【地歴公民の授業が「わかる」実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて80%以上。		
	学力の伸長	センター試験の各科目の平均点が全国平均点-5点以内。		
数学科	学力の伸長	3学年：大学入試共通テストの数学①で、自己採点平均点が全国平均点の80%以上。 2学年：進研2月マーク模試の数学①で、偏差値50以上が100人以上。 1学年：進研1月記述模試の数学で、偏差値50以上が120人以上。		
	授業力の向上	生徒アンケートの【数学の授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて80%以上。		
理科	授業力の向上	よりよい授業実践のため、年間を通して全員が授業公開を行う。		
	基礎学力の向上	授業に関する生徒アンケートを実施し、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。		
	新学習指導要領への対応	主体的・対話的で深い学びの実現のために、情報収集や意見交換を行い、授業改善の取り組みを進める。		
保健 体育科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。		
	基礎体力の向上	体力テスト総合判定において、C判定以上を70%、B判定以上を30%とする（2.3年次は前年度との比較も行う）。		
英語科	学力の伸長	3学年：11月ベネッセ駿台マーク模試で偏差値50以上が75人以上・英検準2級以上を4割以上が取得。 CEFR-J A2.2レベル以上が30人。 2学年：11月進研模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を4割が取得。 1学年：1月進研模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を2割が取得。		
	授業力の向上	生徒アンケートの【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて8割以上。		
食物科 ・家庭	専門調理技術を習得し、進路希望を実現する。	食物調理技術検定学習を通じて「技術向上に主体的に取り組めた」生徒が80%。 専門教育を生かした進路の実現が75%。		
	食の総合的実践への取り組み	校内試食会において、自分の役割に対し「積極的に責任を果たした」とする生徒の5段階評価アンケートの結果が平均4.2。		
	生活技術の向上	家庭基礎・家庭総合において、生徒アンケートで「家庭科の授業をとおりして生活技術の向上がみられた」と答える生徒が75%。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
音楽科 ・芸術	芸術性豊かな演奏家・音楽教育者の育成	音楽科で習得した知識や技術を生かした進路の達成率75%。		
	アンサンブル活動をとおして協働する力の向上	重唱重奏や合唱合奏の科目において、他のパートと協働し、共に音楽を創り上げることができた生徒が80%。		
	表現力の向上	音楽・美術・書道の科目の各選択において、生徒アンケートで「芸術の授業をとおして自己表現ができた」と答える生徒が75%。		
情報科	情報活用技術の向上	社会と情報において、生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報活用技術の向上がみられた」と答える生徒が80%。		
	情報モラルの向上	社会と情報において、生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報モラルの理解が深まった」と答える生徒が85%。		
学習指導 (教務)	授業力の向上	よりより授業実践のため、授業公開月間を年2回設定し、年間をとおして全員が授業公開を行う。また、教科会を実施し、各教科で授業改善のための意見交換を行う。		
	基礎学力の向上	生徒に学力の伸長を感じさせられるような授業改善を図る。全員が授業に関する生徒アンケートを実施する。(よくあてはまる+ややあてはまるの割合)『興味・関心、学ぶ意欲が高まる』(80%以上)『説明が分かりやすく、内容がよく理解できる』(80%以上)『授業の進め方に工夫がされていると感じる』(80%以上)『予習・復習などをしっかり行い、理解が深まるように努めている』(70%以上)『自分の学力が伸びていると実感出来ている』(70%以上)		
生徒指導	校則に基づき、服装・頭髪等の指導を行う	職員の共通理解のもとに頭髪服装検査を行い、各回の校則違反者を各学年8人以下とする。違反者の頭髪服装を修正させる。		
	交通安全指導を充実させる	交通安全について継続的に指導し、昨年度から交通事故件数を減らす。「チュウオウの品格」を定期的に発出し、校内・校外の生活について注意を促す。		
	安心・安全な環境で共感的な人間関係を育む	スマートフォン等の利用に関して継続的かつ段階的に指導する。またいじめアンケート等を活用し、人間関係トラブルを未然に防ぎ、トラブルが起こった場合は迅速に委員会を開催し解決に努める。		
進路指導	進路に関する有効な情報提供	学年集会時での講話や学習環境整備の内容及び配布物・刊行物の活用等について「有効」、「ある程度有効」とする教員・生徒・保護者が80%。		
	進路目標の達成	・1・2年：11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。 ・3年：共通テスト出願率85%以上、国公立大学合格60名、難関大合格3名、就職希望達成100%。		
保健環境	学習環境の整備を積極的に推進する態度の育成	生徒アンケートで「普段の清掃はまじめに取り組んだ」の回答が80%以上。		
	心身の健康問題の早期発見・対応による重症化防止	生徒アンケートで「先生方は悩みを十分聴いてくれた」「どちらかといえば聴いてくれた」の回答が80%以上。 日常の相談活動、関係職員との連携により保健室頻回来室者(年10回以上)を50人以下。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
生徒会指導	学校行事で自分の役割を果たして活動する。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、どのような役割を果たし、どのような活動をしたかを具体的にあげてもらうとともに、「貢献度（自己満足度）」が90%以上。		
	学校行事が充実している。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、「充実している」が90%以上。		
	生徒会執行部員のリーダー性の育成。	年度末に生徒会執行部へアンケートを実施し、「全校生徒から理解と協力を得られたと感じる」が80%以上。		
図書視聴覚	知的好奇心を高め読書活動の充実につなげるための情報提供	生徒及び職員アンケートで「図書館や図書の情報が随時発信され、高校生活や読書活動に役立った」「どちらかと言えば役立った」の回答が80%。		
	視聴覚機器・機材の維持、管理とともに操作手順の習得に努め、効果的な活用を図る	職員アンケートで「時間・場所等、適材適所に応じて、視聴覚機器機材の運用がなされているか」について「そう思う・どちらかと言うとそう思う」が90%。		
総務	PTA活動の活性化及びPTA総会等の参加率向上。	保護者の25%以上がPTA関連行事に参加。		
	PTA役員による中央グッズの企画、販売。創立120周年に向けて、生徒からデザインを募集し、活性化を図る。	新たな中央グッズを企画中。生徒からデザイン募集し、保護者への周知を積極的に行う。各種PTA行事で販売予定。昨年度より多くの人に購入していただく。		
人権教育同和教育推進	人権教育、同和教育についての共通理解を深める	各種研修会等に参加し、研修内容を教職員に報告、周知することなどにより、人権教育、同和教育についての全職員の共通理解を深める。職員アンケートを実施し「研修会報告によって人権教育、同和教育についての理解が深まった」との回答が85±5%。		
	人権教育、同和教育に対する意識向上をはかる	人権教育、同和教育に対する啓発を目指し、校内で全校生徒及び教職員対象の講演会を実施し、全体的な意識の向上を目指す。講演会后、生徒及び教職員にアンケートを実施する。生徒アンケートにおける「講演の内容が理解できた」との回答が85±5%。職員アンケートにおける「講演会によって人権教育、同和教育についての理解が深まった」との回答が85±5%。		
特別支援教育推進	生徒への支援、教員間の情報交換と共通理解	スクールカウンセラー等との連携や実態把握リストの作成により、悩みを抱える生徒の情報や対応を職員で共有し、「生徒の対応に役立てることができた」「どちらかといえばできた」とする職員の割合が75%。		
	個別の指導計画の作成と個別指導	支援が必要な生徒に対して、個別の指導計画を作成し、「計画的・組織的に指導を行うことができた」「どちらかといえばできた」とする割合が70%。		
成果と課題				総合評価